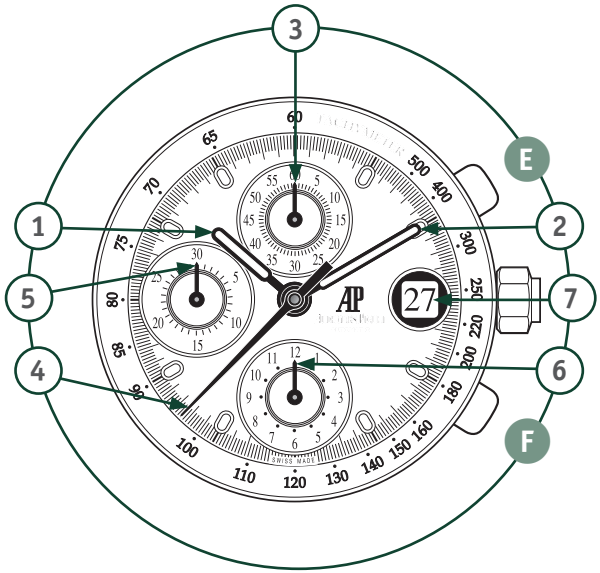
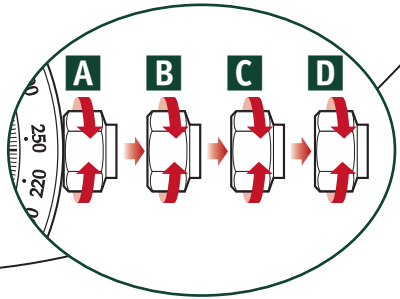
Instructions for use
Mode d'emploi

Chronograph

Calibre 2326/2840
Selfwinding

AP
AUDEMARS PIGUET
Le maître de l'horlogerie depuis 1875


1
2
3
4
5
6
7
E
F
27


A
B
C
D

日本語

使用説明書の目次はインタラクティブになっています（反対側ページ参照）。

読みたい項目のタイトルもしくはサブタイトルをクリックしてください。

目次に戻りたい場合は縦に配された白いインデックス «日本語» をクリックしてください。

1. イントロダクション 139ページ

- オーデマ ピゲのマニュファクチュール
- オートマティック クロノグラフ 2326/2840

2. この時計について 144ページ

- 基本ムーブメント
- オートマティック クロノグラフ
- ムーブメントの技術仕様
- 腕時計の表示機能（図を参照）

3. 基本的な機能 148ページ

- 時刻合わせ
- 時刻合わせ時のテンプの停止
- ムーブメントの巻き上げ
- 日付の調整
- クロノグラフの使用方法
- タキメーターの使用方法

4. 備考 155ページ

マニュファクチュール

時計製造技術の発祥の地、ジュウ渓谷

ジュネーブの約 50km 北、スイス・ジュラ山脈の中に、今日までその自然の魅力を保っている地域、ジュウ渓谷があります。この山岳地帯は気候が厳しく、土壌も痩せていたため、この地に根を下ろした人々は18世紀の中頃に、農業以外の収入の道を探すことを考えました。コンビェと呼ばれたこの土地の人々は、手先の器用さと新しいものを創造する力、また不屈の精神を活かして、時計製造業へと向かうことになりました。

こうして作られたムーブメントは質の高いものであったため、ジュネーブの企業に大変な好評をもって迎えられ、そうした企業によって完全な時計に仕上げられたのでした。

1740年以降、ジュウ渓谷のみで時計製造業は自立した産業として発展することができるようになりました。このとき以来、この地域は、ある年代記の1881年の項に記されているように、「急速に貧困が解消された桃源郷」へと変貌を遂げたのです。

偉大なる冒険に挑んだ２つの名前

1875 年、複雑時計の製作に情熱を傾ける 2 人の若き天才時計職人、ジュール - ルイ・オーデマとエドワール - オーギュスト・ピゲが、高級時計産業が盛んな地、ジュウ渓谷で 2 つの才能を集結させ、複雑機構を搭載した時計を開発・製作しようと決意しました。2人の決意、想像力、そして規律の正しさは、ただちに成功を収めました。1885 年ごろ２人はジュネーヴに支店を構え、1889 年のパリ万国博覧会の際には様々な超複雑懐中時計を発表して、新たな取り引き関係を広げます。オーデマ ピゲのマニュファクチュールは年々と発展を続け、例えば 1892 年には初めてのミニッツリピーター機能付きの腕時計、1915 年にはそれまで実現されたことのない5分単位ミニッツリピーター機能を備えた最小ムーブメントを製作するなどして、高級時計産業の歴史を彩ってきました。

1918 年からは、創設者の息子たちが事業を受け継いでいます。男性用、女性用の腕時計の製作に卓越した技術を発揮し、極薄の洗練された新しいムーブメントを作り出しています。1929 年のウォール・ストリート株価大暴落によって厳しい経営を強いられるものの、粘り強さと自主性を持ち続けることで、まずスケルトンと呼ばれる時計の製作を再び軌道に乗せ、その後クロノグラフ付き時計の製造に乗り出しました。しかし、この新しい勢いも、第二次世界大戦によって突然中断を余儀なくされてしまいます。戦後は再編成をし、マニュファクチュールは、昔ながらのイノベーションを持続させつつ、高級時計の製作に力を入れることになりました。この戦略は大変クリエイティヴな大胆さを持つと同時に、多くの実りをもたらすことになります。

国際的な成功を収めたオーデマ ピゲは、1972 年にステンレススティールを用いた世界初のラグジュアリースポーツウオッチとして発表され、発売と同時に大きな成功を収めたロイヤル オークの製作をはじめ、1986 年に発表された世界初の自動巻きの極薄トゥールビヨン腕時計などの製作を続けてきました。以来、マニュファクチュールの創造のひらめきは衰えることなく、比類ないムーブメントを備えた独自の美しさを持つ時計を世に送り続けています。こうして80年 代末には複雑時計のテイストをコンテンポラリーなものに一新し、1999 年には見事なコレクション「トラディションオブエクセレンス」を発表します。この時計には、パワーリザーブ インジケーター機能、デットビートセコンド機能、垂直に配された永久カレンダーが備わっており、さらには潤滑油を必要とせずに革命的な高い効率で機能する新脱進機システムを搭載することにより、伝統に根付いた大胆なスピリットを実現しながら、未来をも約束しています。

オートマティック クロノグラフ 2326/2840

オーデマ ピゲのキャリバー2326 / 2840 は、デジタル表示デイトとクロノグラフ搭載の自動巻ムーブメントです。これはセンターセコンド、数字によるデイト表示を備えた自動巻ムーブメントで、機能性、時計としての性能、そして最高レベルの美学を完璧に融合させています。

オートマティック クロノグラフ

さまざまな状況、またはイベントなどで、二つのアクションの間の時間を定期的に測定する際に、クロノグラフは必要不可欠な計器となります。これはジュウ渓谷の二人の時計職人、アンリ=フェレオル・ピゲとアドフル・ニコルによって発明され、実現されました。

時計を填めた腕の動きは、ムーブメント作動に必要な回転エネルギーを発生させます。

このエネルギーは、21金製の回転錘に吸収され、歯車によってゼンマイに伝えられます。

スプリングが徐々にバレル軸に巻き付くことで、エネルギーが蓄積されます。蓄えられたエネルギーはコンスタントにムーブメントに供給されます。

時計を填めた方の運動量や生活習慣の違いにより、数時間から数日の範囲でパワー・リザーブが上限に達します。

過大な負担を防ぐために、巧妙なシステムによりゼンマイが適当なタイミングで香箱内を空転します。

タキメーター

タキメーターとはダイヤル上に施されたスケールで、ある一定の距離（通常 1000 m）を通過するのにかかった時間で平均時速を測る機能です。

この速度は通常km/h単位で表わされ、クロノグラフ針により直接ダイヤル上で読み取れます。この時計は時速 60 km から 500 km まで読み取れます。

基本ムーブメント

キャリバー 2326

ブリッジ側

ダイヤル側

オートマティック クロノグラフ

モジュール 2840

ムーブメントの技術仕様

ムーブメントの厚さ:6,15 mm

直径: 26,60 mm(11¾ ライン)

ケーシング直径: 26,00 mm(11½ライン)

振動数: 28'800 振動/時(4Hz)

石数: 50

パワー・リザーブ: 約 40時間

一方向回転の自動巻き上げ(反時計回り)

金、銅、カドミウム合金メッキの香箱(ゴールドカラー)

ボールベアリング取付け21Kゴールド製ローター

耐震テンプ軸受け〈KIF エラスター〉

可変慣性テンプ

時刻調整中は秒針が停止(秒針の停止)

腕時計の表示機能（図を参照）

分を記録すると共に、クロノグラフ機能により微妙な時間を精密に(1/8秒)測定します。

1. 時針
2. 分針
3. 秒針
4. クロノグラフの針
5. 30分積算計の針
6. 12時間積算計の針
7. 日付窓

E クロノグラフ機能のラップボタン
一回押す：スタート
再度押す：ストップ

F ゼロに戻す押しボタン

この時計は4つのポジションを有するリューズを備えています。

A ねじ込まれた位置のリューズ
B 位置 手巻き
C 位置 クイック日付修正
D 位置 時刻合わせ

<**注意**> 時刻や日付を合わせる際、またはムーブメントを手動で巻き上げる場合は、まずリューズを緩めてください。作業後には防水性を保証するために再び **A** 位置までしっかりと締めてください。

時刻合わせ

時間合わせの際はリューズを緩め、D 位置まで引き出してから進めたり戻したりしてください。 合わせたい時刻まで慎重に針を進めながら、正確に時刻合わせをしてください。

注意:日付の変更により午前12時と午後12時を間違えないようにしてください。

時刻合わせ時のテンプの停止

リューズを引き出すと秒針と同時にテンプも自動的に停止します。これにより秒単位の正確な時刻合わせが可能です。

ムーブメントの巻き上げ

時計が停止した場合は、リューズを B 位置で時計回りに30回転させることにより、完全に巻き上げることができます。その後は手首の動きにより、自動巻機構が時計の正常な作動を持続させます。

日付の調整

誤作動を防ぐため、日付メカニズムが作動していない午前1時から午後9時までの間に操作を行うことをお勧めいたします。

時計が正確な日付を表示していない場合は、リューズを C 位置(日付のクイック修正)に引き出し、合わせたい日付が現れるまで時計回りに回してください。

作業後は防水性を保つためにリューズを A 位置までしっかりと締めてください 。

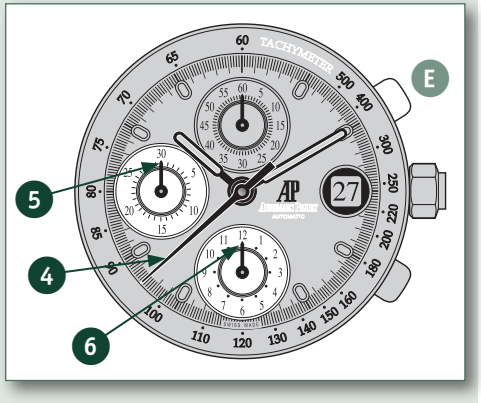
クロノグラフの使用方法

スタート
プッシュボタン E を押します。

ストップ
ラップボタン E を再度押すと、クロノグラフ針がストップします。

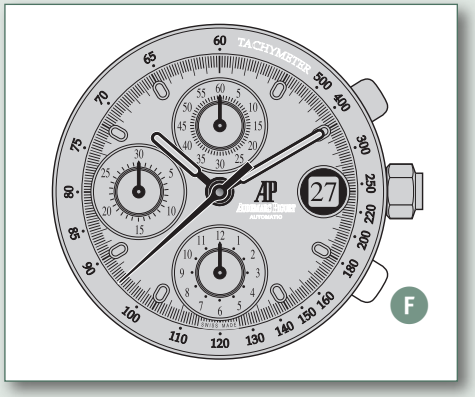
記録された時間の読み方は、以下の様に行います。

- 時間カウンターの針 6
- 分カウンターの針 5
- クロノグラフの針 4



ゼロに戻す

プッシュボタン F を押します。.



時間測定の継続

一旦ストップしてから、クロノグラフを、ゼロに戻さずに、随時再スタート、再ストップを行い、最初とそれ以後の測定値を加算する事が出来ます。操作中も、時計は正常に進みます。

タキメーターの使用方法

クロノグラフ機能に結び付けられたタコメータの目盛りにより、スピードを測ることができます。　クロノグラフを作動させ(START)、1 km地点でクロノグラフを停止させます(STOP)。クロノグラフの針がタキメータースケール上で指している数字が平均時速になります。

(START)と(STOP)の間隔が20秒であれば、タキメータースケールで読み取る平均時速は180 km/h（図1）。

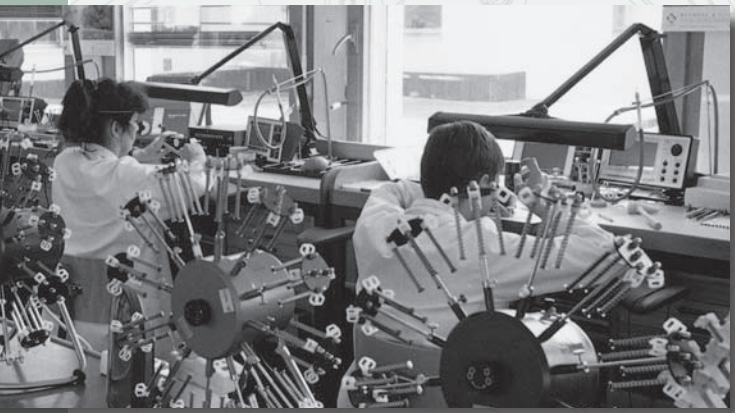
30秒であれば平均時速は120 km/h （図2）。

1kmに40秒かかったのであれば平均時速は90 km/h （図3）です。

図1

図2

図3



保証とお手入れ

時計の保証、および推奨するお手入れ方法に関する全ての詳細な情報は、証明書および付属の保証書に記されています。